科目名	子ども文化	必修・選択	選択必修	授業形態	講　義	評価の方法	試験	―
							レポート	60%
							提出課題	30%
担当者	安藤　節子	単位数	2	学年・期間	1　年 前　期		授業態度・意欲	10%

授業のねらいと概要	保育における児童文化について学ぶ。 具体的な児童文化財に触れながら、より良い内容や方法を考える。
到達目標	・保育において多く使用される、文化財を中心にその具体的な方法を身につける。 ・現代の子どもを取り巻く文化財の問題点を学ぶ。
学習者への期待（含準備学習）	絵本・紙芝居・その他の文化財について、知識を深め実践力を身につける。

回	授業計画	授業内容
1	現代の子ども文化	テレビと子どもその傾向と課題
2	同上	遊具や玩具その傾向と課題
3	同上	マンガや雑誌その傾向と課題
4	絵本について	子どもと絵本
5	絵本について	発達と絵本
6	絵本について	昔話とその意味
7	紙芝居について	日本の昔話
8	紙芝居について	世界の昔話
9	自然物で遊ぶ	砂・水で遊ぶ
10	承遊びと子どもの音楽	わらべ歌を中心に
11	伝承遊びと子どもの運動	おにごっこその他
12	伝承遊びと人間関係	手遊びを中心に
13	手作りおもちゃとその意義	低年齢児のための遊具
14	子どものための作品	グループによる制作
15	子ども為の作品と発表	グループごとの発表

テキスト	『保育用語辞典』（ミネルヴァ書房）
参考文献	

科目名	子どもと自然	必修・選択	選択必修	授業形態	講　義	評価の方法	試験	―
							レポート	40%
							提出課題	20%
担当者	永井　博敏	単位数	2	学年・期間	1　年 前　期		授業態度・意欲	20%
							プレゼンテーション	20%

授業のねらいと概要	・自然や科学技術と人間の生活との関わりについての基礎的な知識を持ち、筋道だてた所見をレポートや口頭で他に伝えることができるようになることをめざす。 ・子どもの興味・関心を引くような身近な自然や科学事象・技術に関する知識・理解を深め、それらに関する疑問を見つけ、解決する活動を通じて学びを深める。
到達目標	・身近な自然や事象及び人間の生活とのかかわりに関する基礎的な事柄が十分理解できる。 ・「なぜ？」「どうして？」の疑問について、筋道だてた所見をもって説明することができる。 ・身近な自然に親しみ、進んでかかわろうとする意欲や好奇心をもつことができる。
学習者への期待（含準備学習）	子どもたちは自然大好き、動物大好き。溢れる子どもの好奇心を支えることのできる保育者に必要な科学的知識に日ごろから興味・関心を寄せ、理解力や説明力の高揚への努力を期待する。

回	授業計画	授業内容
1	オリエンテーション 自然の営みと人間の生活Ⅰ	目全体計画と修得を期待する能力や態度についての説明。 ○映像資料（里山の自然と人間の共生）をもとに「古来から人間の生活がいかに四季おりおりの自然の営みと深くかかわってきたか。」を考え、所見を述べたりレポートに表したりする。
2	自然の営みと人間の生活Ⅱ	
3	森林の特徴と自然のバランス（生物多様性について）	○広葉樹林・針葉樹林の特徴と四季の変化、それに対応して生きる動物たちの生活との関連について理解する。（映像資料）
4	秋田の自然を生かした職人技	○男鹿・八郎潟の自然の特徴と男鹿石の石工、潟魚の佃煮職人、矢竹の御矢師など伝統的な職人の技に触れる。（映像資料）
5	身近な植物と遊び、生活	○道ばたや公園、野原に見られる草花のあらましを知り、身近な植物に関する知識・理解を深める。（野外活動を含む）
6	身近に見られる樹木と生活	○街路樹、短大構内や公園の樹木について基礎的な知識を理解する。
7	身近な動物（野生動物、飼育動物）	子どもに親しまれている動物・小動物・昆虫類及び魚類や鳥類についての基礎的な知識や特徴を理解する。また対象を絞って詳しく調べてまとめる個別課題に取り組む。 （レポート等）
8	身近な小動物や昆虫及び魚類	
9	親しみやすい野鳥・飼育鳥類	
10	気象・天文・地質についての事象	○子どもが関心を寄せがちな気象・天文・地質に関する１～２項目の事象を取り上げ、科学的な理解を深め、考察をする。
11	日常生活にみる自然科学的事象	○日常生活の中で見られる２～３項目の自然事象を取り上げ、科学的な側面から理解を深め、他に説明できるようになる。
12	科学技術のトピックと人間の生活	○自然科学に関する近年のトピックを取り上げ、科学的な理解や技術的な理解を深めるとともに生活との関連を考える。
13	自然災害と私たちの生活	○地震・津波・台風・突風・豪雨・豪雪などの自然災害について科学的な理解を深め、生活者として不可欠な知識を得る。
14	野外活動の楽しさとリスク管理	○幼児期における「自然探索や遠足」などの野外活動の有効性とリスク管理について必要な知識を獲得する。
15	これまでの総括の発表	○これまでの授業を通して得たことをあらかじめまとめて、受講者全体に発表する。（課題のまとめは授業時間外となる）

テキスト	自作プリントを使用（Ａ４フラットファイル必要）
参考文献	特定せず。（その都度、関連する書籍等を紹介する）

科目名	文　学	必修・選択	選択必修	授業形態	講　義	評価の方法	試験	40%
							レポート	－
							提出課題	40%
担当者	寺田　和子	単位数	2	学年・期間	1　年 前　期		授業態度・意欲	20%

授業のねらいと概要	子どもが初めて接する文学＝絵本について広く深く知るために学ぶ時間である。幼い子どもにとって「よい絵本」とはどのようなものか、子どもの発達段階を追ってそのときどきにふさわしい絵本選びのポイントを挙げて具体的に学んでいく。実際に絵本に触れてどのような点が「よい絵本」の目安なのか研究していく。
到達目標	・子どもの発達段階に即した絵本選びのポイントを押さえる。 ・「よい絵本」とはどのようなものか選ぶ目を持てるようにする。 ・幼い子どもに読み聞かせるために大切なことはどのようなことか考え、実際に読み聞かせに挑戦する。
学習者への期待（含準備学習）	・幼い頃、大好きだった絵本について記憶を掘り起こしてみよう。 ・なぜ子どもにとって絵本が大切なのか、考えてみよう。 ・絵本の善し悪しを見分ける前にさまざまな絵本に触れ、心を引かれる絵本を見つけてほしい。 ・なぜ惹きつけられるのか、いろいろな角度から考えてみよう。 ・絵本を見る目を養うために必要なことについて考えてみよう。

回	授業計画	授　業　内　容
1	オリエンテーション	
2 3	1　絵本のよさ	①絵本のよさとは：・伝えたいメッセージがある（言葉） ・絵の世界（絵言葉：言葉、雰囲気：感性） ・大人も子どもも共感できる
4 5 6 7 8	2　子どもの発達と絵本	①第１段階：生後４か月くらい～２歳６か月くらい 《再認識の時代》 ②第２段階：２歳６か月くらい～４歳６か月くらい 《本の内容に気づく時代》 ③第３段階：４歳６か月くらい～小学３年生くらい 《想像の時代、本の世界に入る時代》 ④第４段階：小学３年生くらい～小学５年生くらい 《知識吸収から共感する時代》 ⑤第５段階：小学５年生くらい以上 《思索する時代》
9 10 11	3　絵本選びのポイント	①色　②ていねいな絵　③部分と全体の絵　④文章 ⑤物語と絵の調和　⑥意味と時間　⑦連続性と意外性 ⑧見せ場　⑨作家の主張　⑩主人公の年齢 ⑪魅力的な登場人物　⑫登場するおとなたちの魅力 ⑬登場人物の擬人化とその表情　⑭本の年齢　⑮赤ちゃん絵本 ⑯うんち、おしっこには要注意　⑰昔ばなし絵本 ⑱仕掛け絵本　⑲美術書のような絵本　⑳月刊保育絵本
12 13 14	4　よい絵本とは	①「よい絵本とは」で取り上げられている絵本を図書館で探す。 ②（グループ活動）①の本の中から五冊ずつ選びさまざまな角度から研究する。 ③発表原稿を書く ④グループ毎に発表する ⑤グループで選んだ本の中から１～２冊読み聞かせに挑戦する
15	5　学習のまとめ	

テキスト	
参考文献	